

マタイの福音書 第22章 37節

「そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』」

イスラエルの民が長い歴史を通し、神に示された真理を、イエスがご自身の時代になり再び取り上げます。民の生活を通して教えられ、継承され、身近な言葉であったと容易に想像できます。取り上げたのは、あまりにも身近となり、教えの中身が絵空事になっていたからかもしれません。教えが生活化することなく、ただ唱えられるだけだったからかもしれません。

知ってはいるものの、自分の生活にはなんら関わりのない、なんの変容ももたらさない教えになっていたからかもしれません。口先で唱える教えで、歩んで告白するみことばになっていなかったのでしょうか。

それにしても、罪、咎、汚れを身におう者が、聖なる神を愛することなどできるでしょうか。滅んで当然の身である者が聖なる神を愛することができるでしょうか。否です。罪人にとり神を愛する道は閉ざされています。しかし、イエスは彼に言われたのです。全身全霊、すべてをもってあなたの神である主を愛しなさいと。イエスによってのみ、初めて私たちは神である主を愛せます。